

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下

2001

8・15

No. 22



主 な 記 事

- アナトリア考古学研究所① 総 裁 寛 仁 親 王 殿 下
- 会長就任挨拶..... 会 長 黒 木 武 弘
- 創立50周年記念式典の状況



—アナトリア考古学研究①—

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛 仁 親 王

去る五月の理事会で、永年、会長として御尽力戴いた、加藤威二氏が勇退され、黒木武弘元厚生事務次官が、新会長に就任されました。

加藤氏が、御推薦下さる方は、いかなる御人であろうかと興味津々でお待ちしていた処、とても愉快な方である事が判明し安心しました。

「黒木」という名字は、宮崎県に多く、元知事も、「黒木」さんでしたが、案の定、宮崎県人で、「百年の孤独」という皇太子殿下がお気に入りだとかで、一躍有名になった酒造元の分家の方だそうです。

扱、私の近況ですが、創立五十周年が無事終了したからと言うわけではありませんが、ここ二年半程は、福祉の現場監督の仕事を少々削らねばならなくなりました。

三鷹市に、父が総裁を務める、(財)中近東文化センターという亜細亜一の研究施設があります。

十七年前から、センターは、トルコ共和国アナトリア地方のチャウルカン村に於て、カマン・カレホユック遺跡の発掘を実施しています。

アナトリア地方というのは、古代史の中でも

東西文明の交通の要衝であり、言うなれば、交差点の様なものですから、考古学上極めて、重要な発掘調査が期待されるのです。

既に、世界史の中で唯一、未解明とされている、「暗黒時代(ダークエイジとも言う)」と呼ばれている、三二〇〇〜二七五〇年前の四五〇年間に、「どの様な民族が、どの様な文明を持ち、どの様な生活をしていたか?」が、我が日本隊の発掘現場から解明されようとしています。

近い将来、もしこの事に成功するとすれば、世界中の中・高等学校の教科書の年表は、総て書き替えられる事になりますから、壮大なるロマンと言えます。

考古学という分野は、永年、欧米の考古学者達によって、時間を掛けて構築されてきました。我々は、児童・生徒の時代、彼等の構築してきた世界史を教室で学んできたわけですが、日本隊は、この世界史も一つ一つ再検討しようとしています。

欧米の発掘隊は、ともすると「宝探し」の様な発掘を繰り返しているようですが、大村幸弘主任研究員を隊長とする日本隊は、日本人の国

民性そのままに、緻密且つ地道に、刷毛と篩で、丁寧に掘り進めるといふ丹念な仕事をしています。

アナトリア地方特有の、マウンド型の遺跡を縦に掘り進める事によって、地下に眠っている何層にも互る考古史を、「文化編年」に基づいて、きちんと再考察しようとする発掘方法です。

この根気のいる、地道な努力が、前述した、「暗黒時代」の解明にも、大いに貢献しているわけですし、現在、概ね四一〇〇年位前迄の時代考証が進んでいます。将来的には、その倍の八〇〇〇年位前迄の正確な古代史が、カマン・カレホユック遺跡に於て、きちんと整理されるはずで。

只、残念なことに、トルコ政府は、一九七二年頃、トルコ国内のあらゆる発掘現場に於ける出土品の国外持ち出しを禁止する法律を作りました。

そこで、(財)中近東文化センターでは、三年程前に、政府から、許可を受け、現地に恒久的な研究施設を建設することを決定しました。

私が、トルコ政府の肝入りで設立された、土日基金日本文化センター落成式(アンカラ市郊外)に、父の代理で出席した折、足を伸ばして、発掘現場に行き、「アナトリア考古学研究所」の看板掛けの儀式を現在のブレハブ棟の前で実施したのはその決意の表れでした。

(以下次号)



就任ご挨拶

社会福祉法人 友愛十字会

会長 黒 木 武 弘

去る五月二十五日の理事会、評議員会で、友愛十字会の会長・理事長として約二十二年間、会の発展にご尽力なされた加藤威二氏が、健康上の理由により退任され、私が後任の会長・理事長に就任することになりました。

当法人は、昭和二十五年九月にハワイ在留邦人の方々からの善意の寄附金を基金として設立され、昨年五十周年を迎えた団体です。現在、高齢者福祉施設三、身体障害者福祉施設四、高齢者・身体障害者デイサービスセンター二、支援センター一、公益事業二、ショートステイ事業三、そのほか身体障害者更生援護のための啓蒙普及事業を営んでいます。特に、初代総裁には三笠宮崇仁親王殿下を、昭和四十九年からは現総裁の寛仁親王殿下をご推戴申し上げている全国でも伝統と歴史のある法人ですから、改めて身の引き締まる思いをいたしております。

私は、昭和三十四年四月、厚生省に入省し、以来、平成五年に厚生事務次官を最後に厚生省を退官するまで、三十四年間直接厚生行政に携わり、退官後も社会福祉・医療事業団理事長として八年間社会福祉関連の仕事に携わって参り

ました。もとより、輝かしい業績を残された加藤前会長・理事長には及びもつきませんが、お引受けした以上は誠心誠意当法人の経営安定と、更なる発展に向けて最大限の努力をいたす所存でございますので、今後とも何とぞよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現在、日本の社会福祉の状況は、戦後、半世紀に亘って築き上げられた社会福祉制度が、社会の変化に合わせて、二十一世紀に向けた福祉へ再構築するための基礎構造改革が進められています。とりわけ、施設福祉の充実、発展に大きな役割を果たしてきた措置制度がなくなり、契約による利用制度へと移行しつつあります。

また、社会福祉法人以外の民間企業等が初めて福祉界に参入することが認められたり、第三者による事業評価が始められたり、社会福祉システムは、利用者主体の福祉制度へと転換が図られることになりました。

このような大きな社会福祉の転換期と、日本経済の長引く景気低迷の中にあつて、私ども社会福祉法人は、国や地方公共団体からの補助金

を期待するだけでは、法人経営を安定的で、国民の期待と信頼が得られるような事業として推進することは難しくなってきました。今や、不足する財源は自助努力等で補い、事業をすべての角度から経営として取り組むような、意識改革が必要な時代になって参りました。

当法人の施設におきましても入所者は顧客であります。顧客から選ばれて、その上満足していただけるような施設づくりをしていかなければなりません。

今後、社会福祉を取り巻く環境はますます厳しくなる中で、様々な難題が続出してくることと思いますが、役職員一同微力ながら懸命に努力して参りますので、関係各位にはご指導、ご支援を衷心よりお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

社会福祉法人 友愛十字会
創立五十周年記念式典の状況

・ 初代総裁おことば

・ 総裁おことば

・ 会長式辞

・ 感謝状贈呈者ご芳名

・ 表彰状受賞者名簿

・ 記念式典の状況報告



初代総裁おことば

三笠宮崇仁親王殿下

友愛十字会が創立五十周年を迎えまして、本当におめでとうございます。心から総裁、会長をはじめ、役員或いは皆様のご熱心なご協力に対して、心から感謝を申し上げますと思います。

友愛十字会のいろいろな歴史につきましては、今まで会長、総裁から詳しいお話がありました。私は、もう後五日経ちますと八十五歳になります。昔のことは記憶が薄れておりますので、申し上げる資格がないと思いますが、そもそも、私が友愛十字会にご縁ができましたのは、戦後間もない頃に、たしか読売新聞社の神田孝一氏が、突然、白い傷病兵の着物を着た方を連れて見えました。それが小田島さんと植木さんだったと思いますが、その神田さんが非常に説得力のある方でありまして、身体障害者の援助に出て来いということでありました。それからもう一つは、ハワイの須田文吉氏その他の方々が会いに見えまして、その話を伺いまして、初めは友愛十字会の名誉賛助員で、次いで総裁ということになりました。

最初是有田会長と糸井常務理事でしたが、大変ご熱心に事業を推進されてこの友愛十字会の基礎が固まったわけであります。

私も毎年の身体障害者福祉展やいろいろな事業に顔を出しましたし、また最後の頃には、ボウリング大会も始まりました。そのうち私も、戦後、皇族として一体何をすべきかといういろいろ迷いました。皇族は政治には関わらずということで、そちらは除きますと、後は

福祉事業とかスポーツ関係、或いは学問関係というようなことがございいますが、いろいろな方へ顔を出しておりますうちに、どうも私は福祉事業には向いていない、どうも学問の方が良さそうだと思いい、そちらの方に参る決心をしました。幸い、寛仁が福祉の方にも非常に熱心でありまして、また、今ではそのエキスパートになっておりますが、丁度良い時に総裁を交代したと思っております。私が総裁を続けておりましたら、友愛十字会はこのように立派にならなかったでありましょうし、五十年の式典を迎えることができなかったかも知れません。

私の方は、及ばずながら今でも大学で講義をさせていただいております。両方とも良かったのじゃないかと思えます。それは兎に角といたしまして、福祉事業というのは本当に大変なことでありまして、それが五十年間連綿として続いて、しかも、ますます発展していっていらっしゃる有様を拝見しまして、こんなに嬉しいことはありません。心からお祝いを申し上げますとともに、今後のご発展を心からお祈りいたしまして、私の祝辞といたしたいと思います。本当におめでとうございました。



総裁おことば

社会福祉法人 友愛十字会
総裁 寛仁親王殿下

私は、昭和四十九年七月二十六日に、当時、父が務めておりました総裁職を引き継ぎましたので、今年で二十六年目を迎えることになりました。父から引き継いだ時の理事会、評議員会のご希望は、私は現場監督でありますので、そういった形で総裁というものを期待されて推戴されたと理解しております。

今、会長がすべて申し上げてしまいましたが、初年度から合同運動会を実施いたしましたのでこれが二十六回になります。以下愛のステージ、これは障害を持つ人々の芸能コンクールであります。昨年二十五回を迎えました。さらに、愛のコンサートという資金獲得のイベントにも友愛十字会が参加しています。これは二十四年になります。さらに私は、ご承知の方もいらっしゃるかも知れませんがスキー教師でありますから、友愛十字会にスキー部をつくりまして、当時とても珍しかったスキー実習ということを入所の方々や職員の方々に学んでいただ

きました。これが二十三回を既に数えました。そして昨日、第三十四回宮様チャリティボウリング大会を品川ボウリングセンターで実施いたしました。このボウリング大会は、父が総裁をしているときから実施されていますが、二十一年前にプロボウラー達、そしてボウリング協会の方々のご理解によりまして、身障ボウリングクリニクという、障害を持つている人々のボウリング技術を高めるためのクリニクが始まりました。その後、競技に発展し、昨日も全国各地から障害を持ちながらもボウリングを楽しむ人達がたくさん集まりました。これが二十一回になりました。

我が友愛十字会は、戦後設立致しました身障施設としては我が国最古といえます。戦前からある施設、例えば恩賜財団「藤楓協会」ハンセン病の統括組織であります。これは明治時代に設立されている施設が、全国にいくつもありますので九十周年を超えているところが数ヶ所あります。同じく恩賜財団「済生会」という医療法人は本年八十九年で、明年九十年の祝いを迎えますので、そういう先輩団体があります。少なくとも戦後に区切ってお話を申し上げれば、友愛十字会是最古の施設といえます。従いまして、是非とも五十周年を期して福祉界のリーディングカンパニーとして、又、リーディング施設として、ますます発展するよう期待するわけであります。

福祉のキーワードは「自立」と「共に生きる」この二つに尽きると思います。「自立」というのは自肋努力をすることです。施設経営というのほもちろん措置費等々の補助金がなければ成立しませんがこのような時代になりましたので、先程申し上げたコンサートや様々なイベントを企画することによつて資金獲得するという作業も始めなければなりません。そして「共に生きる」ということは、私がいつも皆様方にお話するのですが、人間の肉体をCＴスキャンで輪切りにした場合に、五十一パーセントの健常部分があれば立派であると言えるし、四十九パーセントしか健常部分がなければ、重度障害と言わざるを得ないという事です。永い間我々は医学的な障害を持つ人を障害者と認定して、弱者と考える風潮がありました、私達はこういう発想は致しません。

どうか皆様方は、これからは頭から爪先までをCＴスキャンにかけて、どんなに重度で足が悪くても脳が立派であるとか、耳が聞こえない、目が見えない、その他の難病に侵されていても、それ以外の部分の残存機能がきちんと発達しているとするならば、その人は健常であると考えて下さい。これが我々の哲学でありポリシーであります。このような考え方に基けば、障害者・健常者という二つの分け方というのは無くなりますので、「共に生きる」が文字どおり生かされると思います。

施設の入所者も、在宅の障害のある人達も同じことです。誰でもが「自立」と「共に生きる」をテーマに、今後、頑張つていただきたいと思ひます。五十年を我々は迎えたわけでありますから、次に我々が目指すべきは七十五年のダイヤモンドジュビリーであります。どうか、そこを目指して、今日お集まりの皆様、そして関係されるすべての皆様方の奮励努力を心から期待致しております。

今日は、五十周年にあたりまして皆様にお集まりいただき、誠に有難うございました。



式 辞

社会福祉法人 友愛十字会 会長 加藤 威 二

本日ここに、社会福祉法人友愛十字会創立五十周年を迎えるにあたり、前総裁三笠宮崇仁親王同妃両殿下、現総裁寛仁親王同妃両殿下のご臨席をいただき、また、かくも多くの方々のお集まりをいただき、記念式典を挙行できますことは誠に有難く、関係者一同心から厚く御礼を申し上げます。

友愛十字会の設立につきましては、ご承知の方も多いと思いますけれども、終戦後、白衣姿の傷痍軍人が巷にあふれ、それを知って心を傷めたハワイの同胞の有志が寄付金を募りまして、昭和二十五年五月に傷痍軍人の更生援護のための財団設立の基金として、百万円を傷痍軍人の団体に送ってこられたのであります。当時の百万円は、今でいえば一千万円を超える金額であつたと思われまふ。

この基金を基礎といたしまして、財団法人友愛十字会設立の認可申請が厚生省に出されました。これは昭和二十五年八月二十八日でございました。これを受けて厚生省は申請から一か月も経たない九月二十五日に財団設立の認可を決定されました。これは役所の仕事としては誠に異例なことでございますが、普通、財団の新設認可というのはそう簡単に下りないものでございますが、この時はやはり厚生省の関係者の皆さん方が、ハワイの同胞の祖国愛に感銘いたして、恐らく事務処理を迅速に行われたのだと存じます。

このようにして出発した友愛十字会におきましては、予てより傷痍軍人問題に関心を抱かれておられました三笠宮崇仁親王殿下に、昭和二十六年三月に名誉賛助員のご就任をお願いし、ご承諾を賜つたのでございます。

昭和二十七年に、社会福祉事業法の施行に伴いまして、財団法人友愛十字会は社会福祉法人友愛十字会として組織を変更いたしました。いま全国に一万以上の社会福祉法人があるそうですが、恐らく我が友愛十字会はそのうちでも最も古い伝統のある法人だと確信しております。

昭和二十八年十一月に至りまして、三笠宮様を総裁に推戴申し上げ、四十九年に寛仁親王殿下に総裁の職をお譲りになるまで、二十二年の永きに亘り当法人をご指導いただきました。

当法人は、昭和三十一年に世田谷区砦の地に養老施設を設置したのを皮切りに、身体障害者授産施設など身体障害者更生援護施設の拡充整備に努めました。

昭和四十年には、三味線豊吉さんという、ご年配の方はご存知と思いますけれども、当時テレビやラジオで有名だった方から友愛十字会の入所者の体育訓練のための施設を作ってもらいたいとのことで、三百万円の寄付をいただきまして「豊吉会館」という施設を落成いたしました。

当友愛十字会が今日まで発展いたしますには、このような民間の方々の温かいご協力があつたことを私どもは忘れてはならないと思います。

昭和四十九年七月に、寛仁親王殿下が総裁にご就任になられました。寛仁親王殿下は社会福祉に大変ご関心をお持ちになり、また、いろいろご見識を持たれた方でございますが、私どもも日頃、叱咤激励を受けているところでございます。総裁にご就任になった三か月後の

昭和四十九年十月に、町田市に特別養護老人ホーム「友愛荘」が落成いたしました。これが当友愛十字会として初めて設置した特別養護老人ホームで最初のお成りをいただきました。

昭和五十年四月には、全国心身障害者芸能コンクール「愛のステージ」が創設されました。これも寛仁親王殿下のご発意でありまして、全国から心身障害者が集まり芸能を競うというものであります。殿下のお考えとしては障害者も健全者に負けないで、何でもできることは一緒にやるということを常に言っておられまして、その実践として全国心身障害者芸能コンクールというものが五十年に発足いたしました。昨年二十五を迎えたわけでございます。

同じく五十年十月に合同運動会を始めました。これは世田谷区を中心といたしまして身障者の関係団体が集まりまして、身障者の運動会を実施いたしておりますが、大体、千人の参加者を得まして、毎年開催いたしております。これも寛仁親王殿下のご発意によって始まったものでございます。

寛仁親王殿下は、皆様方ご承知のとおり、大病をされて六回も大きな手術を受けられましたけれども、それを克服されて現存のようにお元氣になられて、社会福祉関係のご指導にあたられておられるわけでございます。

当法人といたしましては、平成四年に世田谷地区施設の大整備事業を行いました。世田谷地区の施設は、大体築後三十年を経過しているものが多くて、大きな地震等の災害が発生した場合には、入所者のなかに犠牲者が出るのではないかとこの心配がありました。

それで昭和六十三年頃から、当時の常務理事でありました草原国司氏が、このことを心配いたしましたして、何とかこの施設の整備をしなければということになりました。

ところが、整備費として三十億円程度が必要だということになり、

これは当法人の負担可能額一億円程度ではどうにもならないということで、草原常務理事は世田谷区及び東京都並びに厚生省に対して、この施設整備に対する協力を求めるため大変な努力をいたしました。その結果、その熱意が通じたのか世田谷区が総額三十億円のうちの六割にあたる約十八億円を負担していただくことになりました。それに応じて東京都及び厚生省も協力して下さいました。そして平成四年に現在の整備された世田谷地区の施設が完成したわけでございます。

草原国司氏は、残念ながら三年前にガンで亡くなりましたけれども、この五十周年記念式典に彼の姿を見ることができないのは、誠に残念に思われます。

この五十年を振り返ってみますと、関係職員の努力もございましたけれども、総裁に宮様を戴いているという社会的信用もございました。それなりに順調な発展を遂げてまいりました。今後とも社会福祉施設の重要性は、なお一層高まってくるものと思えますが、私ども友愛十字会の関係者は、この伝統ある法人をこれからますます健全な発展をするように、懸命の努力を傾けてまいりたいと存じますので、ご参会の皆様方の今後のご支援ご鞭撻を切にお願い申し上げます。式辞といたします。有難うございました。



感謝状贈呈ご芳名

ご芳名

ご支援継続年数

沼尻智恵子（藤陰静照）様	四十二年
（社）日本ボウリング場協会会長	
池田 朝彦 様	三十三年
南部自動車株式会社代表取締役社長	
山本晴之介 様	三十一年
北村 和子 様	二十七年
慶応義塾大学ライチウス会 様	二十七年
東京中央農業協同組合千歳地区女性部	
田代 光子 様	二十六年
東京紀尾井町ライオンズクラブ 様	二十五年
（財）東急弘潤会会長	
花房 秀樹 様	二十五年
若竹会代表	
権藤 文子 様	二十五年
昭和女子大学附属昭和中学校	
昭和女子大学附属昭和高等学校生徒会 様	二十四年
竹内 修 様	二十三年
天理教北多摩東部支部婦人会 様	二十三年
玄武山普濟寺住職	
弓場 重典 様	二十二年
正木 実 様	二十二年

宮島 春三 様

日本基督教団砧教会教会学校 様

ガールスカウト東京都支部第六十一団 様

ガールスカウト東京都支部第六十一団

関口寿美子 様

村山ゆきほ 様

水落キヨノ 様

白川 富子 様

松本千鶴子 様

東京成城ライオンズクラブ 様

（社）全国建築物飲料水管理協会東京都支部 様

（株）ケーヒン代表取締役社長

下島 啓亨 様

アンリツ（株）代表取締役社長

塩見 昭 様

（株）デュプロ代表取締役社長

坂本 時雄 様

（社）日本ボウリング協会 様

二十二年

二十二年

二十一年

二十一年

二十一年

二十一年

二十年

二十年

二十年

二十年

二十年

八年

二十二年

十五年

二十一年



永年勤続被表彰者（退職者）名簿

■ 退職までの勤続二十五年以上

氏名	年数	施設名	職名
石井 晃	三十八	世田谷更生館	施設長
堀江 四郎	三十	世田谷更生館	営繕手
林 勝	二十六	友愛ホーム	寮母

■ 退職までの勤続二十年以上

氏名	年数	施設名	職名
小平 昭雄	二十四	世田谷更生館	指導員
杉浦 ハルイ	二十三	友愛園	調理員
渡部 公江	二十二	友愛園	寮母
松井 静枝	二十二	友愛荘	寮母
稲垣 利子	二十二	友愛ホーム	寮母
堀江 タツ子	二十一	世田谷更生館	調理員
松井 禮子	二十	友愛ホーム	調理員



永年勤続被表彰者名簿

■ 勤続二十五年以上

氏名	年数	施設名	職名
洪田 きよみ	三十三	世田谷更生館	事務員
津村 一彦	三十三	友愛園	指導員
大和田 弘幸	三十	友愛園	指導員
高橋 カツ子	二十八	友愛園	調理員
鈴木 美代	二十八	東京都聴覚障害者生活支援センター	調理員

・	緑川 仁	二十八	友愛園	指導員
・	高橋 秀志	二十七	東京都聴覚障害者生活支援センター	指導部長
・	河野 時恵	二十五	世田谷更生館	事務員
・	石合 幸雄	二十五	世田谷更生館	指導員
・	太田 英子	二十五	友愛園	看護婦

■ 勤続二十年以上

氏名	年数	施設名	職名
丸山 和三	二十四	コーポ友愛	ホーム長
内藤シズエ	二十三	友愛ホーム	主任寮母
内藤キワ子	二十二	友愛ホーム	事務員
関谷 勉	二十二	砧ホーム	管理栄養士
金指 均	二十二	世田谷更生館	指導員
阿部 知子	二十二	友愛園	事務員
大竹 幸子	二十二	友愛園	寮母
近藤 賢子	二十一	世田谷更生館	看護婦
服部 久雄	二十	砧デイサービスセンター	運転手
菊地 文江	二十	東京都聴覚障害者生活支援センター	主任指導員
野沢真理子	二十	友愛荘	事務員
大谷 透	二十	東京都聴覚障害者生活支援センター	指導員
根岸 章雄	二十	友愛荘	寮父

五十周年記念式当日の状況報告

友愛十字会創立五十周年記念式典は、平成十二年十一月二十七日（月）に、初代総裁三笠宮崇仁親王同妃両殿下並びに現総裁寛仁親王同妃両殿下のご臨席を賜わり、また、来賓など約六百名の招待者の参加を得て新宿区西新宿に所在する朝日生命ホールで盛大に行われました。

記念式典

式典は、小島修治友愛デイサービスセンター長及び間宮メイ子友愛園指導員の共同司会で、定刻の十時に開始されました。安藤 亮法人総務部長の開式の辞のあと、加藤威二会長の式辞、そして現総裁寛仁親王殿下並びに初代総裁三笠宮崇仁親王殿下からおことばを賜りました。

おことばの中で、両殿下が当法人と関わりを持たれた経緯や、いろいろな事業を創設された経緯等々、福祉事業に対する並々ならぬご尽力を賜わったことを伺い知り、大変感銘を受けました。

続いて、石井 晃常務理事がスライドにより法人五十年の歩みを紹介いたしました。創立時にご尽力を頂いた方々、また、当時の建物等が写真で紹介され、半世紀にわたる歴史の重みを感じるものでありました。

次に、来賓紹介が行われた後、当法人の事業並びに諸活動に永年にわたりご尽力を頂きました方々、並びに団体の二十九名の皆様に、感謝状の贈呈が行われました。

寛仁親王殿下より感謝状、信子妃殿下より記念品がお一人お一人に手渡されました。受賞者の晴れがましくも、やや緊張されていた姿が印象的でした。

引き続いて、二十年以上にわたり当法人で職務に精励して退職した職員、並びに在職職員に対して、寛仁親王殿下より表彰状が授与されました。被表彰退職職員九名を代表して元世田谷更生館職員堀江四郎氏、被表彰在職職員二十三名を代表して世田谷更生館洪田きよみさんが表彰状を受領いたしました。殿下から直接手渡されたこの表彰状は、特別の思いが込められたものになります。

この後、祝電が披露され、最後に高塩重光法人経理部長の閉会の辞をもって、予定より幾分早めの十一時十分頃、滞りなく記念式典を終了いたしました。

祝賀会

同日の午後六時から、寛仁親王殿下が当法人に関係の深い約百五十名の方々を赤坂の東邸にお招きになり、五十周年記念祝賀会を催していただきました。寛仁親王殿下のことばに続いて、信子妃殿下の乾杯の音頭で始まりましたが、祝賀会は、出席者の皆さんが親しくお話ができるようにと立食形式で行われ、両殿下を囲む歓談の輪が幾つもできて、約二時間にわたる和やかな祝賀会となりました。

記念式典を終えて

当初は、創立記念日の九月二十七日に式典を開催する予定でしたが、同年六月十六日に皇太后様が崩御され、皇族様方は百五十日の喪に服されたため、この日に延期されたものであります。

式典を迎えるにあたっては、職員による実行委員会を設置して万全の準備を進めてまいりましたが、職員のみならず関係各位のご協力をいただき、無事式典を終了することができました。

特に、寛仁親王殿下には、ご多忙にもかかわらず、幾度となくきめ細かなご指導ご助言をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

また、ご多用のところ当日ご出席をいただきました来賓の方々には、心からお礼を申し上げますとともに、ますますのご健勝を心よりお祈りいたします。



場 景 写 真

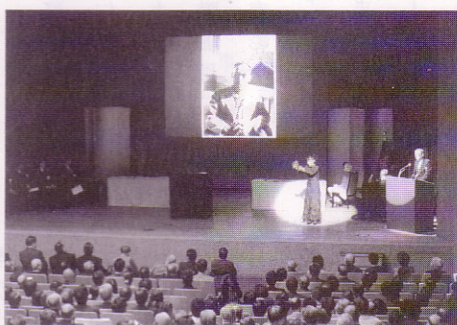
<50周年記念式典>



寛仁親王同妃両殿下



三笠宮崇仁親王同妃両殿下



法人50年の歩み
(スライドによる説明)



来 賓 紹 介



司 会



手 話 通 訳

＜祝 賀 会＞



寛仁親王殿下の祝賀会開会ご挨拶



寛仁親王同妃両殿下と招待者

善意のかずかず

次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

(平成十二年四月一日〜平成十三年三月三十一日まで)

(寄附金) 敬称略あゝお順

○世田谷関係

朝日生命ビル(株)代表取締役社長河津光紀、秋山隆子、新井電気工業所、石井アサ子、石川豊店石川光信、市来美加子、井上洋品店井上善雄、井山建設(株)代表取締役井山由三、魚久、(有)エス・ピー・ジー代表取締役池部慎子、おしやれ床やボヌール、小野坂豆腐店小野坂義弘、圓光寺内藤壽昭、大蔵自動車商会代表取締役長島英行、大蔵住宅自治会会長宮崎春代、大蔵電気、大蔵東部町会、大蔵湯川口よしゑ、貝塚富江、(株)ガードインフオメーションサービス代表取締役

役鈴木弘毅、カナイ屋精肉店、金田孝子、唐沢瑛風、河島サト、関東ボウリング場協会、社会福祉法人嬉泉常務理事石井哲夫、砧教会教会学校、キヌタ書道会菊地偉雄、砧出張所小久保敏靖、砧町自治会、砧幼稚園園長宮裕、クリーニングカシマ、(株)グローバルプロダクトプランニング、小池きわ子、光寿会会長小池鎮男、(株)ゴトク濱中伸昭、(株)寿建築研究所代表取締役坂田淳、佐藤秀子、J A 東京中央千歳地区女性部、重嶋秀雄、自転車いしい石井林平、清水英雄、ジャパニレディスボウリングクラブ、松楓会養護老人ホーム松楓園園長馬場義郎、昭和女子大学附属中学校・高等学校生徒会、鈴木淑子、砂井電気管理事務所、

スワロークリーニング神保三郎、世田谷区グレートボール協会会長有泉豊作、世田谷区高齢者クラブ連合会、世田谷区立山野児童館、世田谷通り砧商店街振興組合代表理事柳田源三、世田谷区役所在宅サービス部長安田正貴、全国建築物飲料水管理協会東京都支部支部長佐川弘、第一大蔵ストアー柳屋商店、田崎ユキ、多田直樹、手塚久子、同栄信用金庫世田谷支店支店長山中清、東急弘潤会、東京健康(株)、東京都身体障害者団体連合会会長兒玉明、富沢キク、内藤厚徳、南部自動車(株)代表取締役山本晴之介、長岡タイ、沼尻善四郎、日赤砧分団小川恵以子、橋本よしの、原川電気設備(株)原川和三郎、ビューティーサロン真、(有)フオワード川上雄渾、(株)福祉施設共済会代表取締役池堂政満、藤蔭静照、(有)藤野製麺所、星野商店、牧野和子、松下千勢子、(有)松本商店、丸正食品大蔵病院前店、(株)丸山工務店代表取締役丸山政輝、水野民也、諸橋イエ、柳田源三、やぶ久、山下英子、(有)山田商店、ヤ

マブン青果山川満、リビングストアータカハシ、和響太鼓木村忠敬

○東京都聴覚障害者

生活支援センター

志村城山町会、(合資)村上製本所、(有限)飯田製作所、(有限)八百幹

○友愛荘

老沼ソノ、小川美子、合掌苑、金井喜代子、小峰服飾専門学校、佐藤茅子、佐藤百合子、菅野昭正、図師寿会、図師町内会、図師馬馳講中、忠生四丁目町内会、鶴川サナトリウム病院、東京紀尾井町ライオンズクラブ、東京都町田福祉園、中村ミドリ、日本キリスト教団小石川明星教会、平田明男、ぶどうの会、町田市、美詠会、明友会、矢口里子、弥生会、友愛荘家族会、吉川久子、渡辺喜代美

(寄附物品) 敬称略あゝお順

○世田谷関係

キリンビール(株)、(株)社会保険協会、(株)宣巧社、東京都食肉環境衛生同業組合、日本たばこ産業(株)、宝来堂、宮島春三、若竹会

○東京都聴覚障害者

生活支援センター

(合資) 村上製本所、坪木屋精肉店

○友愛荘

キリンビール(株)、東急百貨店、東京都食肉環境衛生協会、東京都麵類協同組合、日本たばこ産業(株)、安田信託銀行、米屋(株)、楽農会

(慰問) 敬称略あゝお順

○世田谷関係

青柳太鼓(和太鼓演奏)、あすなろ会左真紀一座(歌謡曲・舞踊)、アンサンブル・リーリエ(コーラス)、演芸バラエティ(演芸・歌謡曲)、大蔵ふたば保育園(演芸・合唱・七夕祭り)、ガールスカウト東京61団(ゲーム等)、金井俊潔(手品)、砧教会学校(演芸・合奏)、砧幼稚園(合唱)、座・打瑠間(邦楽)、南京玉簾ポプラ(南京玉簾)、花の会(コーラス)、ひまわりの会(演芸・舞踊)、ふじの会(演芸・歌謡曲)、宮島春三一行(舞踊)、目黒星美学園・小学部(演芸・ゲーム等)、山野小学校PTAコーラス部(コーラス)、若竹会(演芸・楽器演奏)、若竹和太鼓(和太鼓演奏)

○友愛荘

アンサンブルペオーニア(コーラス)、桜美林幼稚園(花のプレゼント)、桜台保育園(歌と花のプレゼント)、ジャズバンド「ゴメンネ」(ジャズ)、丹巖(アコー

ディオオン演奏)、フラダンスひまわりの会(フラダンス)、ボーイスカウト町田第三団(竹楽器演奏)、町田ときわ保育園(歌とお遊戯)

(招待) 敬称略あゝお順

○世田谷関係

シルバームジックサブライ(チャリティコンサート)、産経新聞大阪新聞厚生文化事業団(世界ばら展・山田かまち展・イタリアヴェネツィア絵画展)、(株)ダイプロデュース(プロレス)、(株)ダイヤモンドコンピュータサービス(プロ野球ヤクルト戦)、東京バレエ劇場バレエ団(くるみ割り人形)、東京原宿ライオンズクラブ(社会福祉大相撲)、東京読売巨人軍(プロ野球巨人・中日戦)、物江民夫(物江民夫リサイタル)

○東京都聴覚障害者

生活支援センター

板倉恵三子「手話によるコンサー

ト」、(株)レディスレジェンドプロレスリング「女子プロレスリング試合」

ご助成御礼

平成十二年四月一日から平成十三年三月三十一日までに、コーポ友愛及び世田谷更生館の入所者処遇向上を図るための設備として、次のご助成をいただきました。

各団体の皆様に心から御礼を申し上げます。

○多田直樹様

コーポ友愛に大型エアコン一台、居室ガス給湯器十四台

○東京都共同募金会様

コーポ友愛給湯配管改修ほか一式

○公益信託 宮川高子記念障害者

福祉基金様

授産作業用高周波ウエルダー一台

友愛十字会主要行事

平成12・4・11・13・3・31

4・2 花見会(コ)

4・3・5 お花見(砧デ)

4・4 入所式(友デ)

4・6 地域交流花見会(荘)

4・6 花見会 (砧ホ)
 4・9 自治会花見 (聴)
 4・12 お花見ハイク (友ホ)
 4・23 家族懇談会 (荘)
 4・28 処遇懇談会 (更・園)
 5・1 31 散策 (砧デ)
 5・17 砧公園ピクニック (雨天のため更生館集会室) (友ホ)
 5・17 若葉昼食会 (荘)
 5・19 社会見学 (臨海副都心) (友デ)
 5・26 青空ランチ (ホーム屋上) (友ホ)
 5・28 ハイキング (所沢航空公園) (聴)
 6・7 あじさい昼食会 (荘)
 6・7、23、26 お楽しみ会



(入所式、友デ)



(七夕会、友デ)

(コーラス・手品・ア
ンサンブル) (砧デ)
 6・10 東京都障害者スポーツ
大会 (駒沢競技場)
 (更・園・聴・コ)
 6・14 日帰り旅行① (箱根温
泉) (友ホ)
 6・21 保健講座 (性感感染症と
予防について) (聴)
 6・21 利用者とホームとの懇
談会 (荘)
 6・25 外出訓練 (池袋防災セ
ンター) (聴)
 7・1 家族懇談会 (砧ホ)
 7・5 七夕祭り (荘・砧ホ)
 7・7 七夕会 (コ・友デ)
 7・7、17、19 仮装カラオケ
 7・13、14 課外訓練旅行 (東武
ワールドスクウェア
キューピー五霞工場)
 (更・園)
 7・20 保護者会 (更・園)
 7・25、27 盆踊り大会 (世田
谷地区)
 7・29 納涼盆踊り大会 (聴)
 8・9 夏祭り (砧ホ)
 8・9 盆法要 (友ホ・砧ホ)
 8・15、19 映写会 (砧デ)
 8・23 地域交流納涼盆踊り
の集い (荘)
 8・30、31、9・1 遠足 (な
しがり) (砧ホ)
 9・3 板橋区防災訓練 (聴)
 9・6 遠足 (ぶどうがり)
 (砧ホ)
 9・6 ソフトボール大会 (聴)
 9・8 運営懇談会 (コ)
 9・9 板橋区スポーツ大会 (聴)
 9・11、13 敬老会 (砧デ)
 9・15 敬老祝賀の集い (友
ホ・荘・砧ホ)
 9・20 秋季彼岸法要 (友ホ・
荘・砧ホ)
 10・18 紅葉昼食会 (荘)
 10・19、20 いきいきせたがや
文化祭見学 (砧デ)
 10・22 友愛ふれあい祭り (世
田谷地区)
 10・25、26 宿泊訓練 (茨城大
洗) (聴)
 10・27 総合防災訓練 (聴)
 10・27 処遇懇談会 (更・園)
 10・24 家族懇談会 (砧ホ)
 10・1 合同運動会 (世田谷区立
体育館) (世田谷地区)
 10・5 第一〇回修了式 (聴)
 10・6 風船バレーボール大会
(町田市立総合体育
館) (荘)
 (合同運動会)



(合同運動会)

砧ホ（砧ホーム）

砧デ（砧デイサービスセン

ター）

職員異動

平成12・4・2～13・4・1

○世田谷更生館

採用 宮繕手山根敏秀 13・4・1

退職 " 江川 寛 13・3・31

砧ホームより配置換（転入）

生活指責

金丸崇彦 13・4・1

友愛ホームより配置換（転入）

看護職員 諸江民子 13・4・1

友愛ホームへ配置換（転出）

生活指責 松本光正 13・4・1

看護職員 近藤賢子 13・4・1

○友愛園

採用 栄養士 齋藤陽子 12・9・18

退職 " 東 千恵 12・6・30

調理員 石黒伊都子 13・3・31

○友愛デイサービスセンター

採用 介助員 中村妙恵 12・7・1

退職 " 三浦直子 12・6・30

作業療法士 中村光伴 13・3・24

○友愛ホーム

世田谷更生館より配置換（転入）

主任生活相談員

松本光正 13・4・1

看護職員 近藤賢子 13・4・1

世田谷更生館へ配置換（転出）

看護職員 諸江民子 13・4・1

砧ホームへ配置換（転出）

主任生活相談員

宮崎 浩 13・4・1

○砧ホーム

採用 事務員 池田慎一郎 12・5・1

介護職員 中野麻里 12・8・1

" 水本幸子 13・1・1

" 陸田光昭 13・4・1

" 伊藤麻美 13・4・1

看護職員 澁田香代子 13・4・1

退職 介護職員 松本久美子 12・6・30

" 大日方靖子 12・12・31

" 覚知 現 13・3・31

" 竹内真紀子 13・3・31

看護婦 矢原由香 13・3・31

友愛ホームより配置換（転入）

主任生活相談員

宮崎 浩 13・4・1

世田谷更生館へ配置換（転出）

生活指責 金丸崇彦 13・4・1

○砧デイサービスセンター

採用 生活指責 井上尚昭 12・8・1

" 石川利明 12・10・1

退職 " 井上尚昭 12・9・30

運転手 服部久雄 13・3・31

○砧在宅介護支援センター

採用 介護支援専門員

吉岡久美子 12・9・1

編集後記

加藤前会長には、約二十二年という永きに亙り、当法人の運営にご尽力を賜りました。心から感謝申し上げます。

後任には、黒木会長をお迎えいたしました。新会長のもと全職員一丸となって努力してまいりますので、今後とも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ゆうあい 第二十二号

平成十三年八月十五日発行
発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 石井 晃

〒157-8575 東京都世田谷区砧
三丁目九番十一号
電話（〇三）三四一六三二六